

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

ふりがな 氏名	ありた ゆたか 有田 豊
(研究テーマ名) ピエモンテの谷におけるヴァルド派共同体およびその集団意識形成の研究	
(研究活動実績) 上記の研究テーマに関連して本年度中に行った研究の成果について記して下さい。著書・学術雑誌に掲載された論文等、および学会・研究会での研究報告、フィールド・ワーク等の記録については必ず記載して下さい。	
【研究論文】	
1. 「近代ヴァルド派史書にみる起源伝承の変遷とその変化理由」 (『リュテス』No.41, 大阪市立大学フランス文学会, pp.3-22, 2013 年)	
【研究発表】	
1. 「博論報告：宗教改革以降のヴァルド派における集団意識——起源伝承によるその形成と保持——」 (リュテス研究発表会, 於大阪市立大学, 2013 年 9 月 28 日)	
2. ピエモンテ谷を中心としたヴァルド派の歴史的記憶に関する調査活動 (頭脳循環プログラム若手研究者ミーティング, 於大阪市立大学, 2013 年 12 月 21 日)	
【その他】	
1. 「ヴァルド派のレジスタンス」 (『流域』No.73, 青山社, pp.20-23, 2013 年)	
本年度はイタリアのピエモンテの谷というトポスにおいて, ヴァルド派の共同体がいかにして築かれ, かつその中でヴァルド派としての集団意識がいかにして形成, 保持されてきたかを検証する研究を行った。	
ヴァルド派の集団意識形成と保持に関しては昨年 9 月に大阪市立大学フランス文学会で発表したものを論文にまとめ, カトリック教会勢力による迫害を耐え抜く中で集団意識が徐々に形成され, 起源伝承によってそれが保持されてきたことを明らかにした。研究の余滴として, 1655 年にピエモンテの谷でヴァルド派に対して行われた「ピエモンテのイースター」と呼ばれる虐殺事件を題材とする読物を青山社に寄稿した。	
ヴァルド派の共同体形成に関しては, 現在もなお調査中である。来年度は UCRC の頭脳循環プログラム (EU TransNet) により, イタリアのボローニャ大学にて 19 世紀以降のヴァルド派における集団意識保持に関する研究に従事することが決定しており, ヴァルド派がピエモンテの谷に入植した時期や, 当地にコミュニティを構築していく過程, 歴史的記憶の形成などを調査していく予定である(これについては頭脳循環プログラム若手研究者ミーティングで研究計画を報告した)。	